

## カンパラ通信～ナカセロの丘から

### 第7回 エンテベ動物園、その悲しみと日本の協力

2017年が明けました。皆様どのように新年を迎えられましたか。日本では一部の地域は豪雪で大変と聞いております。心からお見舞いを申し上げます。一方、通常であれば乾季で雨が降らず穏やかな気温が嬉しいこちらウガンダでも珍しくも各地で30℃を超える気温を記録しています。そのため北東部を中心に130万人の人が食糧援助を必要とする悲しい状況になっており、地球温暖化の影響が様々な形で表れているのではとついつい考えてしまいます。

さて、今回はウガンダにある唯一の動物園であるエンテベ動物園についてご紹介したいと思います。ウガンダの1.3倍以上の面積があるとはいえ、日本には90近い動物園があるのです。その代わりに、ウガンダには幾つかサファリ・パークがありアフリカ象、キリン、カバといった野生の動物が見られます。しかし、いずれのパークも首都カンパラから遠くにあり、エンテベ動物園がカンパラに住む我々にとっては最も身近に動物が見られるところです。動物園はウガンダの表玄関であるエンテベ国際空港から10分ほどの距離に位置します。エンテベ動物園とは通称で、正式には「ウガンダ野生生物保全教育センター」と言います。



(動物園正面入口)



(ウガンダといえば、ハシビロコウ)

この名前が示すとおり、親を失った動物の保護や不法取引で没収された動物を保護するとともに、野生動物やその保護の必要性を若い人を中心とした国民に教える場となっています。その他、動物の繁殖や診療活動も活発に行っています。年間の入場者数は30万人で、そのうち60%が児童・生徒のグループと

なっています。因みに上野動物園の年間入場者数は約370万人です。学校の行事としてこのエンテベ動物園を訪れる子ども達が多いとのことですから、動物園の活動の中でも「教育」という分野が大きな意味を持っていることがお分かりいただけるでしょう。

エンテベ動物園の広さは、70.5ヘクタールと上野動物園の5倍の広さにもなりますが、上野動物園が約500種の動物を飼育しているのに対して、ここエンテベ動物園は約50種とそれほど多くありません。それだけ動物が広々としたところにゆっくり暮らしていると言えるのではないのでしょうか。代表的な動物としては、日本でも著名なハシビロコウ、ウガンダの国鳥となっているカンムリツル、アフリカ象、ライオン、キリン、ヤマネコ、チータといったところですが。ウガンダ国内に数か所の保護区があるチンパンジーはエンテベ動物園では14頭が飼育されております。それらの動物の中でも来場者のウガンダの子ども達の一番人気はアフリカ象のチャールズです。このチャールズの両親はチャールズが生後数週間の時に密漁で殺されてしまい、彼はその直後に保護されたそうです。



(アフリカらしい道路標識その1)



(アフリカらしい道路標識その2)

表題に書きましたが、何が悲しいかと言いますと、皆さんの中には、アフリカだから野生動物が身近に見られると思っている人たちが少なくないのではないのでしょうか。ところが、全くそうではないというのが悲しい現実だということです。さきほど申し上げましたように野生動物が見られるのは国立公園に指定されているサファリ・パークに限られます。サファリ・パークまでの交通費・入園料・滞在費などそれぞれにお金がかかりますので、貧しい一般のウガンダ人がサファリ・パークまで出掛けることはかなり難しいこととなりウガンダの子ども達で象やキリンを見たことがないという子は珍しくないのです。そういう普通のウガンダ人でも訪れることができるのがエンテベ動物園ということに

なります。しかしながらエンテベ動物園を訪れることができるのも首都圏及びその近郊の一握りの子ども達に限られます。「野生の王国」と言われるアフリカで、現地の普通の子供達が象やキリンやカバを見たことがないなんて皮肉というか、悲しい気持ちになりませんか。

実際のところ野生動物が自由に住んでいるサファリ・パークにしても、ウガンダの陸地面積の僅かな3.7%(7,400haで、山手線の内側の広さの2割増しくらい)に過ぎません。そして周辺の牧畜民が自分達の家畜が被害を受けるといって野生の動物たちを殺したりしているのが現実です。天候や自然破壊が野生動物の生息地を狭くさせてしまうことからくる弊害と言っても良いでしょう。これも私を悲しくさせる一つの理由です。

もう一つ、このエンテベ動物園の日本との協力について述べさせていただきます。2008年にTICAD（アフリカ開発会議）第4回首脳会議が横浜で開催されました。この開催をきっかけに横浜市の方で、アフリカとの協力を進めていこうという機運が高まり、その結果横浜市の3つの動物園（金沢動物園、野毛山動物園、ズーラシア）によるエンテベ動物園に対する協力が同年に始まりました。当初は3か年計画で、獣医（診療、繁殖、検査）、飼育（人工孵化、保健管理）、教育（教材、プログラム、展示）の三分野で協力が進められ、ウガンダからの研修員受入れ、横浜からは専門家の派遣等を開始しました。嬉しいことに当初の計画が順調に進んだため、第2次3か年計画が継続され、現在は第3次3か年計画が続行中でこの2017年2月まで行われることになっているのです。

なお、このように日本と縁の深いエンテベ動物園ですので、2012年に秋篠宮・同妃両殿下がウガンダを公式訪問された際にエンテベ動物園を視察されたことは申し上げるまでもありません。

私も、昨年12月にこのエンテベ動物園を訪れ、第3次3か年計画の成果を間近に視察する機会に恵まれました。その際に、エンテベ動物園の職員の皆さんから横浜の動物園から様々な協力を得たことに対して厚い感謝の気持ちが述べられ、心打たれました。案内をしてくれた人も横浜の動物園で多くのことを学んだと言っておりました。象の飼育をしている係員もその一人で、象をどのように調教するかも横浜の動物園の人々から学んだと述べておられましたが、アフリカ人がアフリカの動物の飼育方法を日本人から学んだという皮肉的な事実にも少し悲しい気持ちになりました。



(チータを撫でる筆者)



(象に餌を上げる筆者)

それはそれとして、このエンテベ動物園が日本とウガンダとの友好のシンボルの一つとなっていること、そして、何よりウガンダの子ども達がたくさん訪れる施設に日本が貢献してきていることは本当に嬉しいことです。横浜市の動物園との協力は成果をあげながらも残念ながら間もなく終了するのですが、このエンテベ動物園と協力関係を結びたい日本の動物園はありませんか。どこか手を挙げてくれる動物園があるのであれば大変うれしいのですが...

(以上)